

```

// FelicaLibSample03.cpp : コンソール アプリケーションのエントリ ポイントを定義します。
// リーダ・ライタの自動認識とオープン

#include "stdafx.h"
#include <cstdio>
#include <cstdlib>

#include "felica.h"

int main(void)
{
    fprintf(stdout, "リーダー・ライタを自動認識しオープンするプログラム¥n¥n");

    /* ライブラリの初期化 */
    if (!initialize_library()) {
        fprintf(stderr, "ライブラリの初期化に失敗しました。¥n¥n");
        return EXIT_FAILURE;
    }

    /* リーダ・ライタの自動認識とオープン */
    if (!open_reader_writer_auto()) {
        fprintf(stderr, "リーダー・ライタのオープンに失敗しました。¥n¥n");
        return EXIT_FAILURE;
    }

    fprintf(stdout, "open_reader_writer_auto() 関数を使って¥n");
    fprintf(stdout, "リーダー・ライタの自動認識とオープンに成功しました。¥n");
    fprintf(stdout, "走査するデバイスの名前や暗号化モード等をカスタマイズしたい場合には¥n");
    fprintf(stdout, "set_reader_writer_mode_list() 関数で設定を行って下さい。¥n¥n");

    /* リーダ・ライタのクローズ */
    if (!close_reader_writer()) {
        fprintf(stderr, "リーダー・ライタのクローズに失敗しました。¥n¥n");
        return EXIT_FAILURE;
    }

    /* ライブラリの解放 */
    if (!dispose_library()) {
        fprintf(stderr, "ライブラリの解放に失敗しました。¥n¥n");
        return EXIT_FAILURE;
    }

    fprintf(stdout, "プログラムの実行を終了します。¥n¥n");

    return EXIT_SUCCESS;
}

```